

令和7年度全国学力・学習状況調査結果(小学校)

令和7年4月17日を基準日として実施された「全国学力・学習状況調査」の結果から、稲美町小学校6年生(278名)の「学習成果と課題」「学校・家庭でのようす」「生活と学力の関係」の3項目について分析しました。公表されている全国及び兵庫県の結果と比較して、稲美町小学校6年生の現状は、国語、算数、理科について、ほぼ全ての領域、全ての観点において、全国平均と同程度でした。しかし、算数の「変化と関係」の領域においてやや低さが見られました。

また、全体的なこととして、国や県の傾向と同様、算数における「自らの考えをまとめ表現する力」(記述式)に依然課題が見られます。児童が学習過程で自らの考えを整理し、根拠をもって表現できるよう、表現活動の充実を図る必要があります。

※文部科学省の方針により、学校の序列化や過度な競争につながるような数値は使っていません。
稲美町教育委員会

1 稲美町小学校6年生<学習成果と課題>

教科(国語・算数・理科)に関する47問の調査問題の結果から、稲美町小学校6年生の学習成果と課題についてまとめました。全国・兵庫県の小学生と比較して、数値が高いものや、やや低いものを抽出しています。

[国語]

<調査問題の趣旨・内容>

(例) ・インタビューをする場面において発言の目的として、適切なものを選択する。

・目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書く。

・文章を読み、空欄に入る適切な言葉を資料の中から書き抜く。

・話し合いの記録の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。

<聞くこと>

<書くこと>

<読むこと>

<情報の扱い方に関する事項>

<成果と課題>

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

[]内は、評価の観点 [知・技=知識・技能 思・判・表=思考・判断・表現]

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

○学年に応じた漢字を文の中で正しく使うことができる。

[知・技]

② 話すこと・聞くこと

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

[思・判・表]

●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。

[思・判・表]

③ 書くこと

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

[思・判・表]

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

[思・判・表]

④ 読むこと

○事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

[思・判・表]

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
〔思・判・表〕 ▲

⑤ 情報の扱い方に関する事項

- ・ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し
使うことができる。
〔知・技〕

[算数]

<調査問題の趣旨・内容>

- (例) ・ 示された資料から必要な情報を選び、数量の関係を式に表し答えを書く。 <数と計算>
・ 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め
方を書く。 <図形>
・ 容器の中が空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事
柄を選ぶ。 <変化と関係>
・ 野菜の出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を
判断し、そのわけを書く。 <データの活用>

<成果と課題>

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

〔 〕内は、評価の観点〔知・技＝知識・技能 思・判・表＝思考・判断・表現〕

① 数と計算

- 異分母の分数の加法の計算をすることができる。〔知・技〕
● 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。
〔知・技〕 ▲
● 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位
分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。〔思・判・表〕 ▲

② 図形

- 角の大きさについて理解している。〔知・技〕

③ 変化と関係

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だ
し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。〔思・判・表〕
● 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になってい
るかを表すことができる。〔思・判・表〕

④ データの活用

- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数
を用いて記述できる。〔思・判・表〕
● 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。〔知・技〕

[理科]

<調査問題の趣旨・内容>

- (例) ・ 乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。
<エネルギー>
・ 水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて
書く。 <粒子>
・ ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ。
<生命>

・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く。

＜地球＞

＜成果と課題＞

※凡例 ○：成果があった点 ●：課題となる点 ▲：高無回答率

[] 内は、評価の観点 [知・技＝知識・技能 思・判・表＝思考・判断・表現]

① エネルギー

○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを知識が身に付いている。 [知・技]

② 粒子

○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができる。 [思・判・表]

●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。 [知・技]

③ 生命

○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。 [知・技]

●顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。 [知・技]

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる。 [思・判・表] ▲

④ 地球

●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。 [知・技]